

SAPPORO 教区 NEWS

第17号

2011年1月1日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

二〇一一年「年頭司牧書簡」 一つの幹に連なる枝として生きる

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」
(ヨハネ福音十五章五節)

教会「そが交わり」の場へ

私たちが生きるこの日本において、毎年の自死者数が三万人を超えるようになってからすでに十二年以上が経過しています。経済問題の解決支援や心理的な支援など、全国的に様々な取り組みが多く、善意の方々によってなされているとは

いえ、安堵できるような割合でこの驚くべき数字が減少する気配はありません。昨年は、高齢者の所在不明問題も全国的な注目を浴びました。昨年九月の法務省の調査によれば、「戸籍が存在しているのに現住所が確認できない百歳以上の高齢者は全国で二十三万四千人に上る(時事通信)」と

までいわれています。同じ頃、NHKの特集番組を通じて、「無縁社会」という言葉をしばしば耳にするようになりました。社会全体を覆う様々な要因が積み重なったことであつたよう

な地域社会共同体の枠組みは崩壊し、地域の構成員同士が互いに協力する意識も希薄になり、一人孤立して

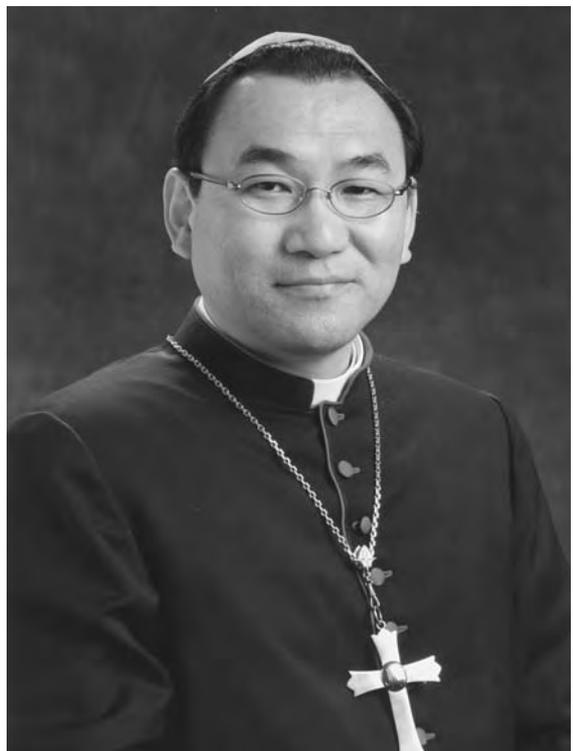
生きる人たちの孤独感が増すまま深まっていく社会を称している言葉です。人と人との絆が失われていまます。深まる孤立感を補うかのように、日本を含めた多くの国々で、ことさらにナシヨナリズムをあげ、そこに団結を見いだそうとする傾向もしばしば見られるようになりました。

会共同体は、地域社会において「神との親密な交わり」と人類の一致のしるしであり道具」となっているのでしょうか。孤立感を深め不安におののく社会の現実に対して、真の交わりの場は教会共同体であると自信を持って宣言できているでしょうか。教会共同体のよりふさわしいあり方を、この一年を通じて見つめ直してみましよう。

「憂慮すべきさまざまな孤独と無関心にますます苦しむ多民族社会にあつて、キリスト者がなすべきことは、希望のしるしを与える方法とすべての人の兄弟姉妹になる方法を学び、歴史を変え偉大な理想を育てること、そして誤った思い込みや無用な恐れを持つことなく、この地球をすべての民族が住まうひとつの家とするよう全力を尽くすことです」

日本のカトリック教会は二〇〇一年に、「新しい世紀をともし歩むすべての人に向けて」、神からのたまものであるいのちの尊さを訴えかける文書「いのちへのまなざし」を発表しました。それから今年で十年という時間が経過します。この十年で、いのちを危機にさらす社会の状況は改善したといえるのでしょうか。いのちの尊厳は確立されたのでしょうか。「いのちへのまなざし」発表の十周年にあたり、二十一世紀初頭のこの十年間を振り返りながら、今一度この文書を手に取り読み返してください。そして「神のわざであり、神のたまものである」いのちについて、あらためて黙想していただきますようにお願いいたします。

札幌教区の皆様、主の降誕と新年のお慶びを申し上げます。



教会は、「神との親密な交わりと人類一致のしるしであり道具」です(教会憲章一)。私たちの集う教

会共同体は、地域社会において「神との親密な交わり」と人類の一致のしるしであり道具」となっているのでしょうか。孤立感を深め不安におののく社会の現実に対して、真の交わりの場は教会共同体であると自信を持って宣言できているでしょうか。教会共同体のよりふさわしいあり方を、この一年を通じて見つめ直してみましよう。

福音の証し人である 信徒の存在

昨年九月、北一条教会で行われた国際デーのミサを司式しながら、様々な国から集まった豊かな共同体の存在を札幌でも感じました。私は司教職のモットーとして「多様性における一致」を掲げております。教区という共同体が全体として真に福音的共同体となるためには、それぞれの小教区共同体が福音に生き、御言葉と聖体のうちに現存される主イエスと、喜びをもって歩みを共にすることが必要です。そのためには、それぞれの教会共同体が、自らの多様性に目覚め、その自覚のうちに一致することが不可欠です。教会共同体の多様性を考えるとき、私は「世代や国籍を超えた交わりの共同体を構築する」ことが重要だと考え、教区司教を務める新潟教区において優先課題の一つとしております。札幌教区においても、皆様に「世代や国籍を超えた交わりの共同体を構築する」ことを、新しい年の初めにあたって呼びかけたいと思います。

リック教会が誕生しました。この教会の共同体を構成するのは、数名の日本人信徒と、百名近いフィリピン出身の信徒とその子どもたちです。新しい教会は、建物から始まりません。この地域に海外から嫁いできた信徒の方々が、信仰共同体における交わりを求めて自分たちでネットワークを作り上げ、共同体を生み出していったのです。二〇〇五年の私の初めての訪問では、教会以外の施設を借りてミサを捧げ、集まった多くの信徒の方が自分たちの教会を建設したいという夢を語ってくれました。その当時、教会建設はそれこそ夢物語だと私は思っていました。しかし信徒の方々の熱意に押される形で建設計画を進めることに同意し、さらに新潟教区百周年に向けた取り組みの一つとして、新庄教会建設を掲げることにしました。ところが実際に新潟教区内での協力の呼びかけを始めたところ、私の予想を超える多くの方が積極的に応えてくださり、加えて教会に転用可能な旧幼稚園園舎と土地が売りに出されたのです。まさしく今こそが用意された「時」であるかのように感じさせられました。

新庄教会建設の出来事は、神の計画がまさしく人間のおもいわずらいを遙かに超えているということを知らしめるとともに、もう一つの大切なことを私たちに示しています。それは、福音の証し人としての信徒の役割の大切さです。私たちは信仰に生きるものとして、イエス・キリストというぶどうの木に連なる枝であり、そのぶどうの木につながっている限りは、「豊かに実を結ぶ」と主は語られます(ヨハネ福音十五章五節)。教会を現実のものにしようとする努力を続けた信徒共同体の存在は、地域社会において、またそれぞれの家庭において、私たちが支える福音的価値観の重要性を目に見える形で示してきました。教皇ヨハネ・パウロ二世は使徒的勧告「信徒の召命と使命」において、分裂や非人間的出来事によって苦しむ社会のただ中にある小教区共同体の重要性に言及しながら次のように記しています。

「道を踏みはずし、方向を見失っていたとしても、人間の心には人間的な関係と配慮を体験し、培ってきたいという願望がつねに残っています。信徒がその本来の召命と使命に忠実に関わっていくならば、小教区はこの願望に応えられるはず(27)」

札幌教区の皆様、この一年を通じて、私たちの小教区のあり方を見つめ直してみましよう。「無縁社会」といわれる日本の現実のただ中で、小教区共同体が「信じるもの」の交わりであると同時に、万人がその交わりに招かれていることの「しるし」と「道具」である(同上勧告)ことを証しして参りましょう。さらにその証しを通じて、ぶどうの木に連なる枝として社会のただ中でふさわしい実りを結ぶ努力をいたしましなう。そのために、信徒の方々には与えられた召命と使命を、祈りの中によく向きまえ、共同体の一員として力を貸していただきたく願っています。

新しい教区の牧者を 求めて

地主司教様の札幌教区司教引退が教皇様に受理されたから、すでに一年以上が経過しました。残念ながら、現時点で後任の札幌教区司教は任命されておりません。教区司教不在であつても、教区顧問団や旧司教評議会(現司教連絡会)を中心に、札幌教区はしっかりと運営されております。教区管理者である私は新潟教区司教と兼任のため札幌に常駐することはできませんが、その分、多くの方々のご協力をいただいていることに感謝いたします。しかし、札幌教区にとって民をふさわしく導く牧者の存在は不可欠です。司教の選任は聖霊に導かれた神のわざですが、具体的には教皇大使を通じて十分な調査を行った上で、最終的には福音宣教省の枢機卿会議の意見を踏まえて教皇様ご自身が判断なさいます。したがってどうしても時間がかかる手続きとなっております。どうぞ、一日も早く、ふさわしい人物が札幌教区の司教として任命されますように、皆様のさらなるお祈りをお願い申し上げます。

終わりに

私は神言修道会会員として、一九八六年三月十五日に名古屋の南山教会で司教に叙階されました。今年に司教叙階銀祝にあたります。二十五年間の間、私が司教職を務めるにあたり、多くのの方々から励ましとお祈りをいただきました。心から感謝申し上げます。心から感謝申し上げます。共に、今後とも私が司教としてまた司教としてふさわしく務めることができまうに、皆様の支えと祈りをお願い申し上げます。特に、新しい札幌教区司教が任命されるまでの間、私が札幌教区管理者の役割をふさわしく果たすことができまうように、皆様のご理解とお祈りをお願いいたします。

なお私の司教叙階銀祝に関連して新潟教区では、今年十月半ばにフランスを中心とした巡礼旅行を計画しております。詳細が決定しましたら、ご案内申し上げますので、よろしければご参加ください。

それでは、新しい年の初めにあたり、皆様お一人お一人の上に、慈しみ深い父である神の豊かな祝福を祈ります。

二〇一二年一月一日

カトリック札幌教区管理者
カトリック新潟教区司教
タルチシオ 菊地 功



多様なに結ぶる一致

菊地司教 札幌教区管理者就任一周年を祝い感謝する

北十一条教会を会場に十一月二十三日（勤労感謝の日）に、司祭 団と修道者、信徒が集って祝い、新潟司教との兼任で札幌教区管理者を引き受け、この一年導いて下さった事に感謝する

空位一年を迎え、札幌教区の牧者である新司教の誕生を心合わせて祈る

菊地司教は感謝ミサの説教の中で、新潟教区で新しく誕生した新庄教会の献堂にまつわる話をされた。

新庄にはもともと二名の日本人の信徒しかいませんでしたが、フィリピンから農家に嫁いできた女性信徒とその子どもが増え始め、今では一〇〇名を越える共同体となったそうです。近くに教会がないため、



新潟教会から司祭を派遣してもらいミサを行っていました。そして、ミサが新庄で行われないときは、様々な事情や困難がありながら、一時間以上かけて鶴岡教会までミサに通っていたそうです。ある日、「日曜日に教会に行かないと生きていけないのですか。」と聞かれたそうです。

その時は、うまく応えられなかったようですが、しかし、その問いかけによって、自分の中で、より強い信仰を実感するようになってきました。そこからの彼女の熱意と努力により、教区民の協力を得ることが出来て、思いもよらぬ速さで教会献堂となったとのことです。これは、希望は神の内にあります。福音を社会の真っ只中で、証したことを物語っています。

社会が様々な困難の中にある現代において、信仰力が今こそ必要であること、個々の生き様が共同体の生

き様となり福音を証しすることが大切であることを訴えられ、このような質問を



＝感謝の花束を受ける菊地司教様＝

札幌カリタス 第五回カトリック福祉施設の集い開催

十月十八日（月）聖ベネディクトハウスを会場に、札幌教区内の福祉施設の設置者と施設長 二十名参加。

教区管理者の菊地司教が「暮らしと信仰―途上国を助ける必要と教会の教え―」と題して、以下の三部構成で講演を行う。

その後、二グループに分かれて「命についてカトリック施設としてどう考え取り組んでいるか。また、どう取り組むべきか」について分かち合いを深める。

菊地司教は、仲間かどうかを判断したシボレテの例えを話し、わたしたちはキリスト者として、「常に神

されるように、わたしたちもなりたい。そして、真摯に福音を生き、述べ伝え、信仰を証しするようにしていきたいものですと投げ掛けられた。

感謝ミサの後には、同教会ホールに会場を移して、お祝いの集いを開催。同教会婦人部の真心こもった料理を囲んで、和やかなお祝いの席となった。

さまの視点とは何かを自分に問うことが大切である」となげかけた。

第一部「人間として生きるための本質」

「創世記二章十八節『人が一人でいるのは良くない。彼に合う助けけるものを創ろう』に示されているように、わたしたちは、神によって互いに助け合うことを運命付けられています。だから、神を信じる者、人類は、ひとつの共同体を形作っています。



例えば、（列福式の写真、米沢の殉教者の絵本を見せながら）米沢の五十三人の殉教者が処刑場に連行される時、藩の役人は、殉教者たちに敬意を払い土下座して見送るように聴衆に命令しました。これは、殉教した彼らの生き方によるあかしの生み出したもの。

また、パウロ西堀式部は家来に自分の財産を携えさせ、処刑される前に近くのハンセン病患者のために使用するように役人に依頼しました。これは、生命の極みにおいてイエスの教えを忠実に証した証明です。

ベネディクト十六世回勅「希望による救い」に『人間は単なる経済条件の生産物ではないし、また、有利

な経済条件を作り出すことによって外部から人間を救うことはできない』と記されているように、『人の苦しみを受け入れて自分の苦しみとすること』が大切なことです。『なぐさめ』は CON + SOLATIO（一緒+独りの人）が語源であるように、独りの人と共にいることが慰めとなるのです。

「希望による救い」に『人間は単なる経済条件の生産物ではないし、また、有利

回勅「希望の救い」三十九節で教皇様は、『人とともに、人のために苦しむこと。真理と正義のために苦しむこと。愛ゆえに、真の意味で愛する人のために苦しむこと。これこそが人間であることの根本的な構成要素です。』と語っています。人間として生きることの本質とは何かを語っています。

「創世記二章十八節『人が一人でいるのは良くない。彼に合う助けけるものを創ろう』に示されているように、わたしたちは、神によって互いに助け合うことを運命付けられています。だから、神を信じる者、人類は、ひとつの共同体を形作っています。

『Martyr（マルティール）』であり『証し人』と言う意味です。殉教者とは、信仰を証しするのであり、福音を証しするのです。従って、互いに助けるものとして創造されたわたしたちは、生命を与えられた共同体の中で、その本質を証しするものとなるように創造されたのです。生涯を通じた生き

方によって証しするように招かれています。日々の生活の中で、社会に何を証しているかが大切なのです。」と語った。

第二部「神に向かつて秩序づけられた私たちの自由において善を選択する努力」

「カテキズム要約三六三に『人間に固有の行動は自由によって特徴づけられる。善を行えば行うほど人は自由になる。自由は最高の善であり、私たちの至福そのものである神に向かつて秩序づけられる時、本来の完全さに達する。』と書かれています。また、ルワンドの石碑には『今回は同じ間違いを犯すなよ。子どもたちも殺してしまえ。』一九九四年四月のラジオ放送』と記されています。この石碑の文章は、一九五九年の紛争の際に子ども達を殺さなかったので、一九九〇年の内戦が起きたことを言い表しています。ルワンドは、教会が多く、教会に逃れてくれば大丈夫と考え教会に逃れてきました。ところが、そこら中の教会で虐殺が行われました。キリスト教国で何故このようなこと

が起ったのか。欧州列強国からの植民地時代の歴史的な背景があるのですが、根本は信仰の本質である福音を伝えきれないなかつたということでしょう。教会の規模だけを考えて宣教してきたということ。これは神様が求めていたことではなかつたのです。」

マルコの福音書の「善い青年のたとえ話」を用いて、何故、善い行いをするのかについて語り、「イエスの視点は貧しい人を向いて行っているのに対し、青年の行いは自分のためであり、自分が天国に入るために行っています。この視点の違いが問題なのです。神様の視点から行うべきことは何か？自分は一体どこを見ているのか？の視点に問題がある。」ことを指摘された。そして、パウロ六世の回勅「福音宣教」十八節から、「福音宣教とは、人類を内部から変化させる』ものであり、『証し』をする基本的な生き方とは、神に向かつて秩序づけられた自由において善を選択する努力、神の御言葉と計画に背く人間の判断基準、価値観、関心のまと、思想傾向などに、福音の力によって

第三部「世界の現実、人間の発展の教会」

影響を及ぼすことです。何故、私が今ここでしなければいけないだろうと考えると、もしかたがないことで、神の身勝手さから逃れることは出来ないのです。」と語られた。

「神から与えられた賜物という考えが基本であり、これから始めなければなりません。一人ひとりの尊厳が阻害されているのを見たと考えさせられます。パチカン公会議の現代世界憲章二十九章に記載されている内容は、国連の世界人権宣言の内容に近く、人権を守る事が主です。しかし、人口とGNPのデータを見た時、世界を分断する八対二の壁があります。約八十%(七九・二%)の途上国の人々が約二十%(二三・三%)のGNPである(富を持っていない)という事です。逆に言えば、約二十%の先進国が約八十%のGNPである(富を持っていない)と言う事です。中国、インド、ブラジルが加わればさらに大きく変わります。資源的にもさらに経済的に発展するという事には大

きな問題があります。」
「ヨハネ・パウロ二世が回勅「新しい課題」(C A 29)で、これから求められる発展とは、『より相応しい生活を築き上げること。個々の尊厳と創造性、天職・神の召し出し(呼びかけ)に応える力を具体的に高めること。』と語っています。今、人間開発(Human Development)が注目されています。幸福とは相対的観念です。経済的なことを中心に考えるのではなく、教育、健康、政治的自由、文化、アイデンティティ、個人の安全、コミュニティへの参加、環境保全などをトータル的に充実させ選択肢を豊かにすることによって、経済的な発展もついてくるだろうという考え方で、カリタスジャパンもアジアを中心にプロジェクト(女性の自立支援など)を展開しています。貧しい中でも子どもの教育の必要性を明るく希望に満ちた表情で語ってくれたお父さんをも忘れず、このようになんか出会う機会をくださった神とカリタスジャパンに感謝します。」と結ばれた。

午後からは、講演内容の質疑応答に引き続き、二グループに分かれて、「命についてカトリック施設としてどう考え取り組んでいるか。また、どう取り組むべきか。」について分かち合う。

参加者からは、「カトリック施設として、命に神さまの目線に立ってどのような考えの原点に立ち返って考える努力をしている。」「今の介護保険制度では、職員が充分でない苦しい立場。命を考える観点でも大きな問題がある。」「保育所ではほとんどが未信者。シスターに週一度来園してもらっている。父母や子どもは、シスターの話は聞いてくれるが職員の話は聞いてくれないところがある。」「現場は職員の教育時間が取れない状態。一日も休めないし夜も休めないで職員を研修に携わせることも中々できない。新任研修のみがその機会であり、どうカバーしたらよいか大きな問題である。」「タイアップして、同じ目線で見ていけるようにすれば...」「今日の司教様のお話は、職員に聞かせたい。プリントして

折に触れて見せたい。」「司祭・修道者のみに頼らず、信者の方にも人材がいるので対応してはどうか。」「現場はこうですと、社会や政府に発信する努力も必要ではないか。」「年代間に価値観のずれがある。例えば、バラバラに家族が生活しているなど。大切な文化や習慣が身につけていない人が職員になってきている。」「高齢者のみとり・信者の入所者の気持ちをよくみ取れているか？家族から見捨てられたという気持ちをどう受け止めているか？自問するところが多い。」「身障者施設では、家族より職員との関わりの方が長い。職員としてこれでよかったのかという気持ちになる。」「今回のことでも思ったが、自分の悩みを分かち合うことによって、どのようにしていけばよいかわかるようになるのではないか。』などの意見が出された。

午後からは、講演内容の質疑応答に引き続き、二グループに分かれて、「命についてカトリック施設としてどう考え取り組んでいるか。また、どう取り組むべきか。」について分かち合う。



＝午後の分かち合いの様子＝

「聖母マリアへの祈り」の改訂について

二〇一〇年十二月八日の無原罪の聖マリアの祭日に「聖母マリアへの祈り」から「アヴェ・マリアの祈り」へ

日本カトリック司教協議会は、現行の「聖母マリアへの祈り」を、できる限りラテン語原文の内容を生かして改訂することにして「アヴェ・マリアの祈り」を作成しました。長年親し

んできた「聖母マリアへの祈り」を改訂し、新しい祈りを承認することは、信徒の皆様の負担を思うと、司教団として勇気のいることでしたが、より良い祈りで賛美を奉げるために改訂に

踏み切ったとのことでした。

改訂箇所について、日本カトリック司教協議会事務局では、次のように説明しています。

①「アヴェ・マリア」について

ラテン語の祈りは、「Ave Maria」という呼びかけで始

まります。この「Ave」というあいさつの言葉は、「聖母マリアへの祈り」では省かれていました。ルカ一章二十八節に基づくこの言葉は、「聖書 新共同訳」では「おめでとう」、フランシスコ会聖書研究所訳『新約聖書』では「喜びなさい」などと訳されています。しかし、例えば臨終や通夜のような儀式の中で、ロザリオの祈りを唱える時、「おめでとう」「喜びなさい」や天使祝詞の「めでたし」などを用いると唱えにくいとの指摘が、「聖母マリアへの祈り」を作成したときからありました。また、「アヴェ・マリア」という言葉は、キリスト教以外においても、すでに広く定着していると考えられます。これを考慮した上で、今回は

ラテン語の冒頭の言葉を片仮名で表記することにししました。

②表題「アヴェ・マリアの祈り」について

ラテン語の祈りの冒頭の

「Ave Maria」をカタカナで表記することにしたので「アヴェ・マリアの祈り」にしました。

③「恵みあふれる聖マリア」を「アヴェ・マリア、恵みに満ちた方」に改訂

「恵みあふれる」と訳さ

れていた「gratia plena」の箇所は、ラテン語の「plena」の意味「満ちる」により忠実な訳として「恵みに満ちた方」としました。

④「主はあなたを選び、祝福し」を「あなたは女のうちに祝福され」に改訂

「主はあなたを選び、祝福し」の訳では、ラテン語原文の「mulieribus」女のうちで「が訳されていないとの指摘があり、この言葉

を表現しました。また、「聖母マリアへの祈り」では、主なる神を主語として、「主はあなたを選び」と訳したため、原文にない「選び」という言葉を用いました。

これらの点をふまえ、かつての文語の祈り「御身は女のうちに祝せられ」に近い表現にしました。

⑤「あなたの子イエスも祝福されました」を「ご胎内の御子イエスも祝福されています」に改訂

ラテン語の原文「fructus ventris tui」あなたの胎

の「実」の「ventris」胎を訳して「ご胎内の御子」と訳しました。なお、「fructus」は文字通りの意味では「実」「果実」（英語では「fruit」）ですが、日本語の祈りの文章になじまないため文語の祈りにある「御子」を採用しました。そして、「祝福されました」は、

聖書のギリシャ語原本の該当箇所（ルカ一章四十二節）を参照すると、過去に行われた行為の結果が、現在も続いている意味を含め訳すことができるので、「祝福されています」と表現しました。

以上の改訂趣旨を「理解頂き、「アヴェ・マリアの祈り」を、個人や共同体で奉げていただけますようお願いいたします。

■ご意見のお願い■

この「アヴェ・マリアの祈り」は最終決定版ではありませんが、作成にあたっては教義的な観点から十分な時間をかけて、司教団で吟味を重ねて決定いたしました。

個人や共同体として広く試用していただき、祈りとしての唱え易さ、語感、日本語の表現などについて、是非、カトリック中央協議会までご意見をお願いします。

【ご意見の提出方法】

できるだけEメールを利用して、ご試用いただいた各小教区、修道院、または個人から、個別に提出してください。

【ご意見の提出先】

〒一三五―八五八五
江東区潮見二―一〇―一〇
カトリック中央協議会
司教協議会秘書室 宛て
E-mail=
maria@cbj.catholic.jp
Fax 03 (5632) 4465

【ご意見ノ切】

二〇一一年三月二十五日必着でお願いたします

アヴェ・マリアの祈り (試用版)

アヴェ・マリア、恵みに満ちた方、
主はあなたとともにおられます。
あなたは女のうちに祝福され、
ご胎内の御子イエスも祝福されています。
神の母 聖マリア、
罪深いわたしたちのために、
今も、死を迎える時も祈ってください。
アーメン。

(2010年10月8日 特別臨時司教総会にて試用承認)

■ 転出司祭 ■

▽北見教会の主任司祭だったパウロ・ボウマン・ピエ・マルティン神父(フランススコ会)は、十月三十一日付で母国のオランダへ帰国。



(全道司祭会議で霊名のお祝)

二十九日(金)の夕方から北見教会で、フランススコ会の長谷川潤日本管区長も出席され、五十二年間宣教された日本での最後のミサを奉げられて、翌日三十日(土)の午前中に、信徒の方々に見送られ北見を出発なさいました。長い間、日本で宣教なさいましたが、今後は母国オランダで過ごされる。

▽北一条教会の助任司祭だった上原博之神父(フランススコ会)は十月一日付けで東京六本木の聖ヨゼフ修道院へ異動されました。

お二人の神父様のご健康をお祈り申し上げます。

二〇一〇年NWM 全国大会の支笏湖開催に携わって

北一条教会 岡澤まどか 一年前に、「NWMの運営委員やります！」と宣言し、あっとい間年の一年でできて今は「ほっと」しています。

大会テーマである「タアタアンワ(ここにいる)」を、どう伝えていくか。それと同時に、参加者の皆さんに有意義な時間を過ごして楽しんでもらうために何をするか。試行錯誤の連続でした。大会が終わって



＝全国からの参加者で記念撮影＝

て、NWM全国大会というイベントは私の中では嵐のように過ぎ去っていった感覚でした。開催中は、正直、タイムスケジュールの変動等でかなりテンパりまくっていました・・・(笑)。

終了後に、参加者の様々な感想の言葉をもらい、今は嬉しさと達成感で一杯です。そして、NWMのすごさを改めて感じた大会でもあります。参加して下さった皆様、そして一年間を通して関わって手伝ってくれたスタッフのみんな、ありがとうございました。そして、いつもここにおいてくださる皆様、そしてNWMにいて下さった皆様感謝の気持ちで一杯です。

【補足】

NWM(ネットワークミーティング)とは、全国のカトリックの青年、青年の活動を支えている信徒・修道者・司祭が自由に集い、そこで今かかえている問題や信仰のこと等を分かち合い、交流する場であるとともに、いろいろな地域の青年や活動している青年と出会い、情報交換の場として、年二回、教区持ち回りで開催されています。

札幌カリタス 社会福祉シンポジウム開催

円ブリオ北海道の「生命尊重を考える講演会」を後援

九月二十六日(日) 藤学園の講堂を会場に行われた講演会には、国際デーや教会バザーなどと重なったため参加数が心配されましたが、多くの市民の方々が参加し六二九名が講演に耳を傾けた。

講師の渡辺和子シスター(ノートルダム清心女子学園理事長)は、「おなかのあかちゃんは、大切な社会の一員です」と、かけがえない『いのち』の尊さを、ご自分の貴重な体験から、判りやすい言葉で、静かに、ここに沁みとおるように話された。

「いのちの尊さを何万回繰り返し伝えるよりも、『今ここにいるあなたが大切』の一言を。そして、たった一回の人生に、あるがままの自分らしい、『いのちの花』を咲かせましょう。小ささは小さくまます。見られても、見られなくても凛として。」と訴えられた。



＝講演する渡辺シスター＝

貴重な講演を聴かせて頂きました。」と感動と感謝を伝えてくれた。こちらからこそ感謝である。

現代社会の生きにくさを反映して、自殺者は年間三万人を超える現状に、国を挙げて自殺防止に取り組んでいる一方で、一年間に失われる胎児のいのちは、届け出だけでも二十五万を超え、そのうち十代の中絶件数は二万三千件。実数はその二倍とも言われています。思いがけない妊娠、若年未婚妊娠、経済的困窮の中の妊娠など、どのような場合も、仕方のないこととして受け入れる前に、「仕方がある」こと、困難を共に乗り越え、生きていける選択肢があることを、知って頂きたいと願っています。

妊婦 SOS ほっとライン
0120-70-8852

札幌地区 市民のための聖書入門講座開催

北十一条教会で十月三十日(土)午後一時三十分から、福音で語られている「心の貧しい人は・・・」をテーマに、草柳隆三氏(教育テレビ「こころの時代」の聞き手)が、雨宮慧神父に質問を投げかけるといふ対話形式で行い、和やかでとても分かり易い講座となった。

草柳氏から「歴史的事実にどこまでこだわればよいのか?」という直球が投げられ、それに対して、雨宮神父から「創世記一章と二章で、人間の創造のところが二つの方法で語られている例を出して、史実だけにこだわっていない証拠では?」「注目するところは、神が人間を創造されたこと、人間が主たるところにどんな意味があるかと言うこと。」「異端な考えを厳しく教会は排除してきたことが大切なこと」と返球され

たのが始まりでした。

続いて、イエスが語った「幸い」の言葉について、「マタイ五章三節から十節」と「ルカ六章二十節から二十六節」に記されている内容などについて話しあわれた。

マタイ福音書では、神とこの言葉が極力記されておられ、そして、「心」とは、原語の意味では「霊」であり、「風」や「息」を表すと説明。そして、マタイ福音書は、不幸には全く触れずに、幸いなことが八つ並び、困り込み・受動形(Ⅱ神)・能動形(Ⅱ人)・受動形(Ⅱ神)という形式の反復で三人称を用いて書かれているという。

それに対してルカ福音書は、四人の幸いな人(貧しい人、飢えている人、泣いている人、憎まれる人)と、四人の不幸な人(富んでい

る人、満腹している人、笑っている人、ほめられる人)を二人称用いて対比して、「今」を用いて、近い将来起きる運命の逆転をテーマにして書かれているという。そして「今」とは、神の支配がこうよとして今で、その時の私たちの心構えや救われることがより具体的に記されているという。そして、聖書が述べる「貧しさ」とは、単に経済的貧困でもなく、単に精神的に現世のものから離脱していることでもなく、社会的な弱者(貧困者・病人・やもめ・子ども・無学な者・自分の不徳を自覚している者など)を広く指すという。さらに、「貧しい」とは、自分の霊に対して貧しい時は、「勇氣に欠け、絶望した」とか「神の前に助けを乞う者」の意味であり、神のな霊に対して貧しい時は、「神の前での謙虚さ」を意味するという。わたしたち人間は、神を信頼する心が乏しいが故に、神に全幅の信頼をよせ、神による救いを求めてへりくだることが大切であること。福音が教える道を全うしたときにわたしたちは救われることを意味しているのだろうか。



＝草柳氏(左)と雨宮師＝

旭川地区 中高生会開催

大町教会 筒井 貴久



＝参加者の記念撮影＝

今回は、「勉強の秋」と言われている季節だけあって、「遊びをしながら勉強」という感じで、中高生たちと一緒に勉強しました。実際には勉強というほど

まじめではないのですが、聖書カルタで聖書の箇所を勉強しながら本気でカルタを取り合っていました。その後は、みんなで餃子を作って夕食を食べました。今回は人数が少なくちょっと残念でしたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。

れます。そして、教会共同体の一員としてのとるべき道を示しています。また、相談窓口の連絡先も掲載しており、常備しておきたい一冊です。

小冊子の代金は無料ですが、制作費の一部として、献金をお願いできれば幸いです。宜しくお願いいたします。

▼「あから始まる贈りもの」たいせつなあなたに――

■新刊紹介■

▼小冊子

「自死の現実を見つめて」
―教会が生きる支えになるために―

カリタスジャパン

啓発部会刊

女が自分の乳飲み子を忘れるだろうか。

母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようとも、わたしはあなたを忘れることは決してない。(イザヤ49章15節)

この本は、あいさつ・輝く・「すてないよ」・チャンス・ぬくもり…など、毎日何気なく使う言葉の一つから、希望と勇氣と神への愛をつむぎだす。「あから順に、日常を彩る言葉の数々を、80余編のエッセーで綴る菊地シスターからの贈りもの。



の言葉を冊子の巻頭にのせ、自死という実態をQ&A方式を交えて、理解し易い言葉で考えさせてく



あから始まる贈りもの
たいせつなあなたに

菊地シスター

訃報

■聖ゲオルギオの
フランススコ修道会

◇Sr.M カンジア金山キミエ
初誓願後、修道院内の調



理と裁縫の仕事に従事。一番長く所属したのは東京六本木マリア院で、フランス会の神父様や同会が運営する日本語学校で学ぶ宣教師のために奉獻しました。その後、青森藤の園で院長の務めも六年間果たし、晩年の九年間は花川マリア院で過ごし、院内の仕事を手伝いながら、共同体のために尽くし、姉妹の必要を感じ取っては良く助けました。八月に肺の癌が見つかった時、「先生、大丈夫です。私は自分の走るべき道を通りましたから。」と話していたそうです。十月二十五日二十一時三十分入院先の病院で神様のみにと召されました。

享年八十一歳。

【略歴】

1929年4月7日
石狩郡当別町生まれ

教区

「人々を慰める教会に」

カトリック新聞で、麹町教会（主任司祭ドメニコ・ヴィタリ神父）で十一月十三日に行われた「自死者追悼ミサ」の記事を見ました。一般紙でも取上げられ注目を集めているといえます。

これまで、カトリック教会では、「自死は、命の主である神に対する大罪」という立場を取って、自死者に対する対応は冷やかかなものであり、教会内で故人や遺族への差別を助長させ、神に助けを求めたくても当事者が教会に来づらいう原因となっていたと言えます。

マリアの宣教師 フランススコ修道会

◇Sr.テレジア 阿部千恵子
五十八年と言う長い年月にわたり神様に奉職してまいりましたが、肝硬変で天使病院にて十一月二十二日二十二時五十二分に神様のみにと召されました。

享年八十一歳。

【略歴】

1929年7月16日
函館市で生まれる
1952年6月11日
入会
1958年6月13日
終生誓願
2002年
金祝
2010年11月22日
帰天

このコーナーは皆様からの思いやお考え等を掲載するコーナーです

カトリック新聞で、麹町教会（主任司祭ドメニコ・ヴィタリ神父）で十一月十三日に行われた「自死者追悼ミサ」の記事を見ました。一般紙でも取上げられ注目を集めているといえます。

これまで、カトリック教会では、「自死は、命の主である神に対する大罪」という立場を取って、自死者に対する対応は冷やかかなものであり、教会内で故人や遺族への差別を助長させ、神に助けを求めたくても当事者が教会に来づらいう原因となっていたと言えます。

「いのちへのまなざし、二十一世紀への司教団メッセージ」(01)で、これまでの教会の態度について反省し、故人と遺族のために「心をこめて葬儀ミサや祈りを行うよう、教会共同体全体に呼びかけていきたい」と明言しています。しかし、命の主である神を考えた場合は色々あるようで、対応は教会によって異なっています。

今回のカトリック新聞の記事を読み、自死者は、神の教えに逆らって命（生きること）を放棄したのではないこと。自死は心の病がそうさせたのであって、神様から見放されるべきものではないこと。かえって、独りでいた人に寄り添えなかつた教会共同体のあり方にこそ問題があったのではないかと、隣人を愛し、弱者と共に生きる教会の姿とは何かを改めて考えさせられました。そして、命は神から授けられたものという間違っていない事実を、どう伝えていったらよいのか悩みました。

自死（自殺）者が十二年連続、年間三万人を超えたという日本社会の現状は、教会が生きる支えとなるために、信徒一人ひとりが、そして教会共同体全体が、この現状に真摯に向き合い、独りでいる人に対して、今自分がなさなければならぬこと、今自分ができると、神様が言っているような気がしました。

主のご降誕並びに新年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

編集後記

教区ニュース発行に際し、昨年中に賜りましたご協力に、心から感謝致しますと共に御礼を申し上げます。皆様のご協力を頂きながら、今年も鋭意努力してお伝えしていかなければと心を新たにしております。

菊地司教は、二〇一一年の年頭司牧書簡で、教皇メッセージと教会憲章の言葉を引用し、今日の社会の様々な現実を前にして、教会共同体のよりふさわしいあり方を、この一年を通じて見つめ直してみましようという教区の皆様にご語りかけています。

社会の中の教会共同体として、それぞれが、それぞれの立場で、神様の旨を証ししていく方法を考えて見ましよう。

教区ニュースへの寄稿文やご意見等を一同お待ちしております。

(編集子)

(札幌 H)